

梅原 裕香 (武庫川女子大学 生活環境学専攻 修士課程修了)

「カラオケ行動の世代差・性差・地域差に関する研究」

【1】 目的

現在のカラオケ行動における楽曲選好や、運用ルールなどの世代差・性差を調査する。また、カラオケ行動には、地域差もあると考え、沖縄での現地調査を実施する。芸能特異点である沖縄と、本土においての地域差は現れるのかについて比較・調査する。

本研究では、カラオケ行動においての世代差・性差・地域差を明らかにすることを目的とする。

【2】 調査内容

文献調査

アンケート調査

カラオケ体験フィールドワーク

沖縄現地フィールドワーク

文献調査

- ・高田公理著 『嗜好品文化を学ぶ人のために』(2008) 世界思想社
- ・白幡洋三郎著 『カラオケアニメが世界をめぐる』(1996) PHP 研究所
- ・岡田暁生著 『音楽の聴き方』(2009) 中央公論社
- ・佐藤卓巳著 「カラオケボックスのメディア社会史」『ポップコミュニケーション全書』アクロス編集室(1992) PARCO 出版局
- ・宇佐美まゆみ著 「自然会話分析への言語社会心理学的アプローチ」『言語運用を基盤とする言語情報学拠点 言語教育学班談話グループの研究成果報告書』(2006) 東京外国語大学大学院地域文化研究所

アンケート調査

43人を対象にアンケートを実施。

カラオケ体験フィールドワーク 31 件のべ 85 人を対象に実施。

カラオケ行動を記録する為の、トランスクリプトを作成。

被験者 3 人で 2 時間のカラオケ行動を、客観的な観察、または参与観察で記録。

被験者の性別・年齢をあらかじめ記録しておく。

時間：午後 14 時から午後 19 時までのうちの 2 時間

シチュエーション： アルコールを摂取しない、ランチ、ディナーも含まない

ファーストフードなども摂取しない、ドリンクバーのみ消費

関係：非血縁な知人関係である老若男女。初対面を除く、特定の親友や、

恋愛関係でもない知人

カラオケ行動を 7 型（参加型・内向型・外出型・侵入型・上げ型・下げ型・アクシデント型）
と 2 行動（ながら行動・感染行動）へ分類。

その他に、最初の曲の決め方と最後の曲の決め地を記録。

また、曲の最後の伴奏を聞き流すが、歌い終わりで止めるかを記録。

沖縄フィールドワーク 現地の方へのインタビューを実行。

のアンケートをもとに、インタビュー形式で 18 人に実行。

以上 4 つの調査から、調査結果の比較・考察を行い、カラオケ行動における世代差・性差・地域差について分析する。

【3】 結果

文献調査

上記の文献を中心に論文の枠組みを作り、宇佐美まゆみの会話分析の観察記録法より、カラオケ行動を観察記録するトランスクリプトを作成した。

アンケート調査

有効回答数 43 人から、カラオケに行く平均時間、人数、相手や、カラオケ行動におけるルールの有無、他世代とのカラオケ交流が行われるケースがあるなどの結果を得た。

カラオケ体験フィールドワーク

有効観察数 31 件から、カラオケ行動とは、行く相手の世代、性によって様々な行動パターンのトランスクリプトになるという結果が得られた。

沖縄現地フィールドワーク

沖縄現地でのインタビュー 18 件より、沖縄でのカラオケには、モヤイが伴うといった結果が得られた。

【4】 分析・考察

詳細は、パワーポイントにて。